

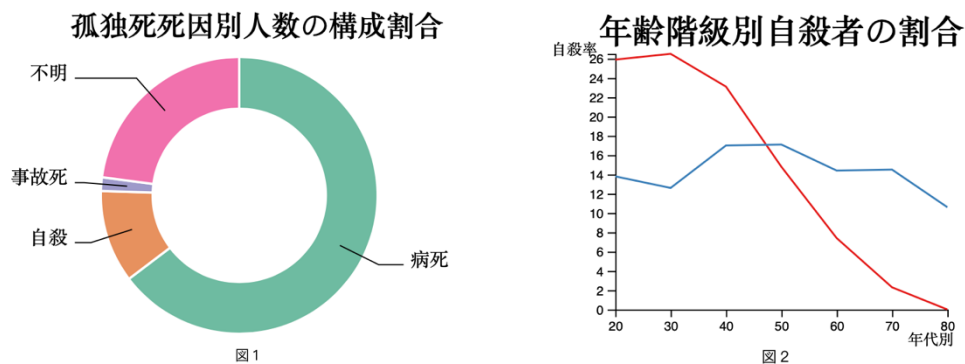
# コロナ禍は、国民自殺率との関連の有無

211x128x LIN YIHAN

## 一、Introduction

現在、日本では一人暮らしをする高齢者、いわゆる独居老人の人数は年々増加の一途をたたり、独居老人の増加が孤独死という社会問題を引き起こしている。孤独死というと高齢者の病死のイメージが強いと思うが、孤独死対策レポートによると、病死が64.7%、自殺が10.8%と(図1)、病死以外の死因も多いようである。また、孤独死における自殺者の割合は、40代までで75.5%と過半数を超えている。(図2、赤線は孤独死者、青線は全国死者)

ところで、国内ではコロナウイルス流行に伴い2020年4月16日に全国に「緊急事態宣言」が発令されるなど感染防止対策を講じてきた。コロナ禍における自殺者をはじめとする、全国の自殺者数や孤独死にどのような影響を及ぼしているのか分析を行った。



## 二、Method

上記の孤独死死因データと年齢別の自殺者割合をよりよく理解するために、それぞれ Pie Chart と Line Chart を用いて、データを可視化してきた。また、緊急事態宣言が発令された後の全国の自殺者数が、2019年と比較し、明らかな違いがあるかどうかを確認するために、2019年と2020年の4月から9月までの自殺者数を Bar Chart でプロットしてきた。(図3、図4)左上のボタンを押すと、2019か2020年の図が表示できる。

## 三、Result

図3と図4の結果から見ると、全国の自殺者数は、6月までは前年より減少傾向となっているが、7月から対前年比べて増加に転じた。一方、全国の自殺者は7月以降増加傾向にあり、この傾向が続く場合、孤独死の自殺者も相対的に

増加する可能性もある。また、4月~9月の孤独死者数は316名。うち自殺者は28名で自殺者は占める割合8.9%。第5回孤独死現状レポート自殺者の割合は10.8%であり、特別な変化は見受けられない。現在入手可能なデータによると、コロナウイルスと自殺率の関連性は明確に示されていないことを分かった。

